

2023年度 委員会事業報告書

担当副理事長 加藤大晴
探究力向上委員会 委員長 三浦知将

1. 委員会開催日 (12回)

01/05 02/01 03/02 04/03 05/31 06/16 07/02 08/05 09/20
10/26 11/20 12/11

2. 事業報告

- | | |
|-------------------------|------------|
| (1) JCデー(11月例会)の担当 | 11月03日 |
| (2) 探究力向上のための公開事業の担当 | 06月17日 |
| (3) JCI日本 サマーコンファレンス担当 | 07月22日～23日 |
| (4) JCI日本 全国大会担当【東京】 | 10月06日～08日 |
| (5) 防災に関する担当 | 通年 |
| (6) 新入会員予定者オリエンテーションの担当 | 通年 |
| (7) 新入会員の拡大 | 通年 |
| (8) 新入会員の育成 | 通年 |

3. 委員会メンバー

三浦知将 中川喜文 安井貴仁 伊藤晴康 高島大輔 池田耕介 伊藤翔太

4. 反省点及び申し送り事項

当委員会では、海部津島地域に住む人々に次世代の社会を生き抜いてくための力を向上させる運動を行いました。

6月事業では、「子供たちには、思考力と行動力を高めて、試行錯誤する力を身に付けていただき、大人には、子どもの成長する姿を見て、子ども新しい学習方法の必要性を認識していただく」ための事業を行いました。探究力を向上させる上で、子供たちが課題解決のために原因と結果を考えて実行することを繰り返し、試行錯誤する力を身に付けることが必要であると考え、情報収集、分析、まとめを主とした事業構築をしました。子供たち自身で課題設定することによって、考えて行動することで、思考力と行動力が高めることができましたと考えますが、事業で課題設定の設えをすることができませんでした。思考力と行動力を高めるためには、探究力向上の核となる課題設定をし、そこから情報収集、分析、まとめを繰り返していただくことが必要でした。子どもに関しましては、自らが課題設定して試行錯誤する力を身に付けることができなかつたと考えます。また、大人に関しましては、事業を通して子供たちが試行錯誤しながら課題解決に取り組む姿を見て、子供たちの成長を実感させることができ、新しい学習方法の必要性を認識していただいたと考えます。また、思考力と行動力を高めていただくことで、主体的に考えて行動することに寄与したと考えます。

11月例会では、「子供たちには、他者と協働し、試行錯誤することで、自分なりの探究方法を発見していただき、大人には、子どもへの教育の意識を変革していただき、子供たちの価値観を大事にしてください」ための例会を行いました。そのためには、子供たちには、子供たち自身で考えて、協働者と一緒に、課題解決に向けて試行錯誤していただく必要がありました。6月では、試行錯誤する力を身に付けることはできませんでしたが、11月例会では海部津島青年会議所や一般企業の探究体験を通して、探究力の身に付け方を体験していただき、自分に興味のある探究方法を発見することはできたと考えます。しかし、1人で体験する設えばかりで他者と協働して試行錯誤する機会を提供できませんでした。参加した子供たちが力を合わせて課題を解決させる設えが必要であったと考えます。大人に関しましては、子どものやりたいことに対してどのように接するかを提示し、大人たちの意識も変わりましたので、子供たちの価値観を大事にしてくださいこともできたと考えます。また、試行錯誤することで、多様な方法を試みることできたことに寄与したと考えます。

基本方針を作成する中では、6月の事業で子供たちが課題設定、情報収集、分析、まとめを一通り経験し、6月で学んだ子供たちが11月の例会までに実践して段階的に成長し、探究の成果を発表することを考えていました。事業を行っていく中で、子供たちが段階的にステップアップしていくためには具体的にどの時点でどのようになっていくかを考える必要があります。また、「自分なりの」「最適な」と言葉の定義を考えずに都合のいいように使用してしまい、事業構築が難しくなっていました。言葉の定義を位置づける必要があったと考えます。

年間を通して、次世代を生き抜くために探究力の必要性を一般企業、学校など地域の皆様にご理解いただき、我々の活動にご協力いただきました。地域の皆様には事業に参加していただき、協働者の協力のおかげで、様々な探究方法を体感し、試すことができたと考えます。しかし、市民が主体的に課題を発見して、考えて行動するまでには至りませんでした。主体的に考えて行動していただくために、市民に目的をもたせることを運動発信する必要があります。

5. 委員長所見

予定者期間では、「探究力」という聞き慣れない言葉から調べることから始まりました。言葉の意味を調べるだけでは、全体像がつかめないこともあり、専門家に聞くこともありました。しかし、専門家の話をかみ砕いて文章化する必要がありましたが、内容を理解することが難しく正確に表現すること至難でした。基本方針は理事長所信を実現するための委員会の基本的な考え方を示すものであるため、事業、例会の事業構築をする上で重要になります。基本方針作成時は基本方針を通すことだけを考えてしまい、結果、事業構築で苦しむ結果になりました。委員会で掲げた目的から逆算して段階的に成長させていくイメージができれば基本方針や事業がよりよいものになったと感じます。対象者である大人は、親、教育者、学校関係者と様々な方がいるので広い視野をもってターゲットを決めればよかったと感じます。

6月事業について、子供たちに関しては、事業目的を達成することはできませんでした。基本方針と同様に時間の確保ができず、事業構築が後手となり、突貫工事的な事業になってしまったことが原因だと考えます。事業に参加した子供たちは楽しんでいただいたことには間違いのないのでやってよかったと思います。試行錯誤の方法ばかり考え、委員会で掲げた根本的な目的を見失ってしまったことを反省します。何のために誰のための事業であるか立ち返ることもしながら事業構築してい

くことが重要であると感じました。

11月例会について、6月事業とのつながりが取れませんでした。当初は、6月事業に参加した子供たちが段階的に探究活動に取り組み、11月例会にて成長する過程や成果を発表していただく構想がありました。子供たちの知識量や経験値を考慮して、参加する子供たちを選定するか、もしくは、時間をかけて子供たちと伴走型で事業を取り組んでいく必要がありました。本来考えていた事業とは異なってしまいましたが、来場した子供たちには楽しみながら様々な探究を体験していただいたことはよかったと思います。

委員長という役をいただきましたが、委員会をどのように運営していくか全く分からない状態でした。JCは多くの時間を使うとは卒業生スピーチで聞いていましたが、想像ができていませんでした。時間は限られているので、JC活動、社業、家庭とのバランスを考える必要もありました。バランスを崩しせざるを得ないことも多々ありました。道中では、当初の委員会の目的を見失い、周りが見えなくなったりすることが多々あり、事業では失敗ばかりが続き、一年間を思い返すと後悔でいっぱい気持ちです。よりよい事業ができればもっとたくさんの人の意識変革をすることができたのではないかと思います。

私がJC活動をできていることは周りの理解、協力があることを忘れてはならないと思います。社員、家族、LOMメンバーのおかげで成り立っていた一年でした。そして、事業では多くの人を手伝っていただき、設営できていたことも忘れてはいけません。

機会を与えていただきました理事長、日頃より協力していただきました担当副理事長、副委員長をはじめとする委員会のメンバー、LOMのメンバーの皆様のおかげで、この一年間、仲間の重要性、主体的に行動することを学ばせていただき成長しました。そして、多大な時間を使っていただきました皆様には深く感謝申し上げます。この一年間で学んだことを一人でも多くのメンバーに伝え、今後は、学んだことを活かし、LOMの皆様にも恩返しすることをお約束して委員長所見とさせていただきます。

6. 収 支 決 算

収入の部				支出の部			
予 算		決 算		予 算		決 算	
事業費	80,000	事業費	71,204	(2)	80,000	(2)	71,204
合 計	80,000	合 計	71,204	合 計	80,000	合 計	71,204